

No. 532【2022年12月2日配信】

本間覃山と石碑 (担当:工藤大輔)

こんにちは！ 室長の工藤です。

もう 5 年半以上も前のことですが、このメールマガジンで合浦公園内にあるふたりの書家、おさないきざん ほんまたんざん 小山内暉山と本間覃山の石碑を紹介したことがありました (2017 年 4 月 21 日配信No.255)。師弟関係にあったふたりの石碑は、園内ダイシンベースボールスタジアム (市営野球場) の北側にある機関車の西側に、ふたつ並んで建っています。小山内暉山の碑の碑文は弟子である本間の手によるものです。

ところで、本間覃山は明治 42 年 (1909) 4 月 2 日に亡くなり、その後門人等により合浦公園に「彰徳碑」が建てられ、同 44 年 11 月 5 日に落成式が執り行われました。建碑にあたっては発起人会が組織され、そこでは「暉山翁の碑石は覃山翁碑石より高くする事」(明治 44 年 1 月 29 日付『東奥日報』)、すなわち暉山の石碑はすでに建立されているので (明治 29 年建立)、覃山の碑はそれより高さを低くすることが取り決められています。師弟関係を配慮した…ということでしょうか。覃山の碑は暉山の碑よりも低いかどうか、確認してみる必要があります。



小山内暉山翁之碑



故本間覃山翁之碑

さらに書家としての本間覃山と石碑の関係についていいますと、明治39年6月20日に建立となった廣田神社の社号標、そしておなじく明治39年12月10日建立の大野稻荷神社の社号標はともに彼の揮毫によるものです。とくに、稻荷神社の社号標の裏面には「明治三十七八年戦役記念標石」と刻まれ、日露戦争の戦勝記念として建てられたことが分かります。



廣田神社の社号標



大野稻荷神社の社号標

そしてもうひとつ、日露戦争絡みでいうと昭和の初めに今純三が描いた「善知鳥神社境内鳥観図」に「日露役忠魂碑」なる碑が拝殿南側にあります。一方、明治39年10月3日付『東奥日報』によると、前日10月2日に新安方町の有志が同寺境内に建てたと目される「(日露戦争)凱旋紀年碑」の除幕式が執り行われています。さて、ふたつの石碑はおなじなのか、それとも違うのでしょうか？

その議論はひとまず措き、「凱旋紀年碑」に注目すると、碑文はこの年の序文をもつ『青森市沿革史』(青森市が発行した初めての「青森市史」)の編者葛西^{かさい}音^{おと}弥^やが記し、揮毫は本間覃山であるといえます。本間覃山はこの年3つの石碑に揮毫していたのです。

なお、現在この石碑は消息不明となっています。